

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 山 川 路 代 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 4820 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 25 年 6 月 30 日 |
| 学位授与の要件 | 医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当) |

| | |
|--------|--|
| 学位論文題目 | Breastfeeding and Obesity among Schoolchildren : A Nationwide Longitudinal Survey in Japan (母乳栄養と学童の肥満との関連 : 日本における縦断調査データを用いて) |
|--------|--|

| | |
|--------|----------------------------|
| 論文審査委員 | 教授 荻野 景規 教授 森島 恒雄 准教授 和田 淳 |
|--------|----------------------------|

学位論文内容の要旨

乳児期の母乳栄養は将来的に子どもの肥満を予防するとされているものの、社会経済的地位や子どものライフスタイルによる交絡の影響が懸念され、未だ結論が出ていない。本研究では、日本における縦断調査データを用いて、交絡因子を調整した後の母乳栄養と学童の肥満との関連を検討することとした。曝露変数については乳児期の栄養に基づいて粉ミルク群、混合群（母乳期間により 1~3 か月、3~5 か月、6~7 か月の 3 群に分類）、完全母乳群の 5 群に分けた。アウトカム変数については性・年齢別の国際的な Body Mass Index のカットオフ値を用いて、7 歳、8 歳時点での肥満を定義した。子どもや母親の要因を調整しながら、多項式ロジスティック回帰分析を行ったところ、7 歳の時点で粉ミルク群と比べた完全母乳群の肥満のリスクは減少し、調整オッズ比（95%信頼区間）は 0.55（0.39, 0.78）であった。8 歳時点でも同様な結果が得られた。乳児期の母乳栄養は日本の学童において肥満のリスクを減少させることが示された。

論文審査結果の要旨

こどもの肥満に対する母乳栄養の影響を検討するため、厚生労働省による 21 世紀出生児縦断調査の初回質問（子供が 6 ヶ月）及び第 7 回（7 歳の対象児 29,907）及び第 8 回（8 歳の対象児 30,780）の縦断データを解析した。曝露変数として、粉ミルク群、混合群（母乳期間により 1~3 か月、3~5 か月、6~7 か月の 3 群に分類）、完全母乳群の 5 群に分けた。アウトカム変数については性・年齢別の国際的な Body Mass Index のカットオフ値を用いて、7 歳、8 歳時点での肥満を定義した。子どもや母親の要因を調整し、多項式ロジスティック回帰分析を行い、7 歳の時点で粉ミルク群と比べた完全母乳群の肥満のリスクは減少し、調整オッズ比（95%信頼区間）は 0.55（0.39, 0.78）であった。8 歳時点でも同様な結果が得られた。結論として、乳児期の母乳栄養は日本の学童において肥満のリスクを減少させることが示された。以上より、本研究は、交絡因子の設定に少し問題はあるものの、大規模な小児の縦断研究の結果を示し、非常に価値ある研究と思われる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。